



卒業証書・学位記授与式／修了証書授与式



短期大学 入学式／専攻科ヒューマンケア専攻 入学式

CONTENTS

2026年度 聖句

「人にしてもらいたいと思うことを、
人にもしなさい」

(ルカによる福音書 第6章 31節)



2026年度事業計画	2
新学長挨拶	3
学長退任のご挨拶	4
退任あいさつ、国際ソロプチミスト相模、永年勤続表彰、人事	5
2025年度決算書・2026年度予算書 概要	8
TOPICS	10

学校法人和泉短期大学 2026年度事業計画

理事長 須田 拓



和泉短期大学は本年、創立70周年を迎えました。本学は設立以来一貫して、保育者と福祉従事者の養成に力を注いで参りました。

2025年度も児童福祉学科137名、専攻科7名の卒業生を送り出し、本学の卒業生は既に2万人を越えています。しかしこの数年、保育・福祉志望者が激減し、全国で養成校の閉校が相次いでおり、本学も入学者数が大きく減少し、2026年度入学者は児童福祉学科92名、専攻科9名に留まりました。

この地に必要な保育者を考えますと、定員の大幅な削減は避けたいところですが、本学は修学支援制度を利用して就学する学生が非常に多く、従ってこの制度の対象校であるために収容定員充足率8割を確保する必要があります。ことから、やむを得ず2026年度より入学定員を120名に削減いたしました。

しかし、20年後も子どもの数がそれほど大きく減少しない人口予想が出ているこの地域において、適切な保育体制が整備され維持され続けていくためにも、保育志望者が継続的に興され、質の高い保育者が育成されて送り出されてゆく社会が形成される必要があります。そしてそのためには何よりも、キリスト教保育を研究し教え、保育と福祉のあるべき姿を提示し続けてきた本学が重要な役割を果たすようなくてはなりません。

これまで12年にわたって学長をお務めくださった佐藤守男特任教授が学長を退任され、大下聖治教授が新学長に就任されました。新学長の下で、主なる神から与えられている本学の使命を確認しつつ、その使命の実現のために、教職員が一つとなって心新たに取り組みで参りたく思います。

そのために、2026年度は以下の6つの柱を掲げます。

1. 建学の精神の継承と深化

和泉短期大学は「キリスト教信仰に基づく教育と人格形成」を建学の精神として掲げ、「愛と奉仕」をスクールモットーとし、一貫してこの精神によって歩みを続けて参りました。

この建学の精神は、保育・福祉の確かな担い手を養成するための基盤となるものであり、時代が変わっても変えてはならないものであると確信いたします。従って、これからの時代のために新しい学校運営の形を探る中でも、この建学の精神に根差した歩みが進められてゆくことが求められます。そのためにも、この建学の精神を常に確認し、より深く理解して、これからの歩みを構想して参りたく思います。

このために、主なる神を礼拝する学校として毎週の礼拝を大切に、キリスト教信仰にしっかりと立ち続けると同時に、2024年度より教職員全体の修養会を行っています。2025年度は金城学院理事長・院長・大学長の小室尚子先生に講師としてお出でいただき、2026年度は東洋英和女学院院長の高橋貞二郎先生にお出でいただく予定です。こういったことを通して、他のキリスト教学校とも連携し、キリストの福音に根差した教育と人格形成の実現という共通の目標のために力を合わせて参りたく思います。

2. 将来構想の策定

2022年度以降、毎年2回あるいは3回、全学的に将来構想会議を開催して、これからの時代に必要とされる保育者・福祉の担い手とはどのようなものか、保育志望者激減の中でどのように保育者を確保してゆくのかなど、本学のこれからの歩みについて話し合い、夢を語り合う時を持って参りました。そしてそれを踏まえて、理事会とも連携して本学のこれからのあるべき姿を模索し、こども支援ソーシャルワーカー、ヒューマンソー

シャルワーカーの和泉独自資格の設立や、専攻科のヒューマンケア専攻へのリニューアルによる、これからの時代のための質の高い保育者養成の取り組み、ウェルビーイングルームの開設による学生支援の充実等、様々な施策が生まれ、実施してきました。

本年度もこれを継続し、子どもの成長を支援する社会の実現のために必要な、これからの時代の保育者・福祉従事者像を示すと共に、本学のあるべき姿について、そしてさらに、入学定員120名で成り立つ経営モデルについて模索して参りたく思います。また、将来構想の策定と実現のために、同窓会や後援会の皆様にもご協力いただければと願っております。

3. 地域連携・リカレント教育の実施

本学の教育は、卒業後も保育者・福祉の担い手を支え続け得るものです。本学が「卒業後も面倒見のよい学校」であるためにできることを模索し、実行して参りたく思います。その一つとして、リカレント教育の継続と充実を図ります。また、本学は地域密着型の保育者養成校として歩んで参りました。その観点から、「はっぴい」や「すまいる」を通して地域の方々の子育て支援を継続すると共に、リカレント講座や喀痰吸引等研修を本学卒業生だけでなく地域の保育者にも開くことで、この地域の保育の質向上にも貢献できればと思います。

保育志望者の減少は、この地で保育・福祉を担う人の減少を意味し、社会全体に大きな影響を与えます。従って、相模原市や近隣市町、そして保育現場との連携を深め、地域と共に、継続的に保育志望者を興してゆくための方策を模索し、積極的に取り組んでゆきたいと願います。

4. キリスト教学校との連携、地方との協力

保育者養成校の相次ぐ閉校によって、保育

者養成に困難を覚える地域が始めています。そのような地域との連携も見据え、地方との協力を模索したいと思います。その中でも特に、キリスト教保育の継承者の育成に困難を覚えている地域は少なくありません。地方も含めたキリスト教学校やこども園・幼稚園・保育園等との連携を深め、これからの時代に必要とされるキリスト教保育の担い手を養成するセンター的役割を担うことを目指したいと思います。

また、キリスト教保育の担い手養成の観点から、和泉保育園とのさらなる連携強化を目指し、願っております。

5. 中期計画の着実な実行、コンプライアンスの徹底とガバナンスの強化

2026年度は本学の第三次中期計画（2025年度～2029年度）2年目にあたります。実施状況を確認しつつ、計画を着実に進めて参りたく思います。

また、2025年度より新私立学校法が施行され、本学もそれに合わせた体制作りに取り組みで参りました。引き続き、私立学校法をはじめとする諸法令に対応すると共に、本学のガバナンスコードに則ってガバナンスの強化に努め、社会から信頼される学校であり続けたいと思います。

6. 施設の維持と整備

本館1号館は築49年を経過しましたが、2025年度はエレベータの設置と学生ホールの改装といった、時代に合わせた整備を行いました。本年度は、建物をさらに長く使用するために、必要な補修を計画に則って実施すると共に、クラークホールや体育館入口の吹き抜けの天井耐震補強について見直しを立てたく思います。

ICT環境についても、引き続き、教育・事務の両面において、時代に合わせた情報を生かすことのできる設備と環境を整えて参ります。

和泉ブランドの再創造と飛躍



このたび、和泉短期大学第9代学長を拝命いたしました。創立70周年という節目の年に重責を担うことな

り、その使命の大きさを深く胸に刻んでおります。本学は、地域に根ざした教育と実践を積み重ね、キリスト教信仰に基づく人格形成を教育の根幹に据えながら、多くの優れた保育・福祉従事者を社会に送り出してきました。私は、この伝統を継承しつつ、次の時代にふさわしい学びの姿を切り拓くことこそ、学長としての責務であると強く自覚しています。

現代社会は、少子化の加速、価値観の多様化、急速な技術革新など、教育機関にとってかつてない変化のただ中にあります。特に保育者養成の分野では、18歳人口の減少や職場環境に対するネガティブなイメージが影響し、全国的に学生募集が厳しさを増しています。本学においても例外ではなく、2026年度の入学人数は入学定員に届かない見込みであり、国の修学支援制度の対象校要件とも密接に関わる重要な局面にあります。もし対象校から外れれば、経済的理由により本学を選ばなくなる受験生が生じ、大学運営に深刻な影響を及ぼします。すでに全国では制度除外を受けた短大のうち、多くが募集停止に追い込まれている現実があります。

しかし、私はこの状況を単なる危機として捉えるのではなく、本学が次の時代へと飛躍するための転換点であると考えています。創立70周年を迎える今こそ、建学の精神に立ち返り、本学の存在意義を改めて社会に示すべき時であると考えます。和泉短期大学は「地域に根ざすキリスト教信仰に基づく保育者養成校」として、そして「キリスト教保育は和泉」とのブランド力を高め、これからも揺るぎない使命を果たしていかねばなりません。その使命を確かなものとするために、2026年度は五つの柱を掲げました。

第一に、建学の精神とスクールモットー「愛と奉仕」の深化です。キリスト教学校としての礼拝の充実、教職員修養会の継続、学生が教会に触れる機会の拡大など、精神的基盤を全学で共有し、教育の根幹をより確かなものにしていきます。建学の精神が全教職員の共通言語となり、教育の質を支える力となるよう取り組んでまいります。

第二に、学生募集力の強化です。SNSが大学選びに大きな影響を与える時代にあつて、Instagramやインフルエンサーを活用した広報戦略を積極的に展開します。また、放課後に気軽に参加できる「放課後キャンパス（仮）」、オンライン型オープンキャンパス、在学生・卒業生のアイデアを取り入れた企画など、学生目線の取り組みを強化します。さらに、地方からの受験生が受験しやすい入試制度の検討も進め、より多様な学生に門戸を開い

ていきます。

第三に、組織体制の強化と業務の効率化です。教職員が誇りと喜びをもって働ける大学であることは、教育の質を高めるうえで不可欠です。IT化の推進や委員会活動の見直しなど、10年先、20年先を見据えた組織づくりを進めてまいります。教育・研究・業務の三領域における戦略的投資を進め、持続可能な大学運営の基盤を整えていきます。

第四に、ステークホルダーとの連携強化です。父母会、同窓会、後援会、自治体、保育福祉業界、高等学校、和泉保育園との協働を深めることで、教育・研究の質向上と和泉ブランドの確立を図ります。多様な立場の方々との対話を重ね、共通認識を持った戦略構築を進めていくことが、大学の未来を支える力になると確信しています。

第五に、地域連携とリカレント教育の推進です。本学の研究成果や知見を地域に還元し、公開講座や現任研修を通じて、卒業生のみならず地域のエッセンシャルワーカーにも学びの機会を広げていきます。将来的にはハイブリッド形式の導入も視野に入れ、より多くの方に開かれた学びを提供します。地域に根ざす大学として、社会のニーズに応じた教育を展開していくことは、本学の使命そのものです。

和泉短期大学は、これまで多くの優れた保育者、福祉従事者を社会に送り出してきました。その歴史と実績は、本学に関わるすべての人々の努力の結

学長 大下 聖治

晶です。私は、その伝統を大切にしながらも、変化を恐れず、新たな挑戦を続ける大学でありたいと願っています。学生が「ここで学んでよかった」と心から思える大学、教職員が「この大学で働いて誇りに思う」と感じられる大学、そして地域から「なくてはならない存在」と認められる大学を目指し、全力で取り組んでまいります。

和泉短期大学がこれからも地域社会に必要とされる存在であり続けるために、学生、教職員、卒業生、地域の皆さま、そしてすべてのステークホルダーの皆様とともに、和泉短期大学の新たな歴史を築いてまいります。今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



学長退任のご挨拶 — 最後の式辞より —



このたび、
2026年3月
をもちまして和
泉短期大学学長
を退任すること
となりました。

在任中の12年

間を振り返りますと、まことに感慨深く、そして、皆様の温かいご支援とご厚情に支えられて今日に至ることができました。心より深く感謝申し上げます。

さて、去る3月10日に行われました卒業式・修了式における告辞が、私にとっての最後の式辞となりました。その折にも触れましたが、本学を巣立っていったより多くの卒業生、修了生の皆さんにお伝えしたいと思い、ここで改めて記しておきたいと思えます。

学校法人和泉短期大学は今年の5月15日で創立70周年という節目を迎えます。そして、これまでに送り出してきた卒業生、修了生は20,566名となりました。その一人ひとりが、日本各地、さらには世界において、保育者として、福祉に携わる者として、あるいは家庭を支える存在として、それぞれの場で尊い働きをしておられます。このことは、本学にとって誇るべきこととであり、また、神に感謝すべきことでもあります。

このたび卒業・修了を迎えられた皆さんもまた、その歩みに連なり、社会に貢献してくれることでしょう。ところで、和泉短期大学の学びを

終えることは、一つの到達点であると同時に、新たな出発点でもあります。皆さんは今、人生の節目に立っておられます。晴れの日の喜びの中にあっても、心のどこかで「これでよかったのだろうか」「これから自分はどうのように生きようか」と、自らに問いかけておられる方もいるでしょう。

現代社会は急速に変化し、価値観は多様化し、あたかも無数の選択肢が提示されているかのように見えます。しかし、その中から自らの道を選び取るということは、他ならぬ自分自身と向き合うことであり、勇気を要する営みでもあります。

将来に夢を描くことは尊いことです。夢は人の心を高く引き上げるからです。しかし、それ以上に大切なことは、「今を生きる」ということではないでしょうか。

過去はすでに通り過ぎました。未来はまだ来ていません。けれども、「今」というこの瞬間は、確かに私たち一人ひとりに委ねられています。この「今」を誠実に生きることが、やがて未来を形づくる礎となるのです。

では、「今を生きる」とは何でしょうか。その手がかりは、皆さんのこれまでの歩みの中に刻まれていると思います。

これまでの人生において、成功もあれば失敗もあったことでしょう。喜びもあれば悲しみもあったはず。それら一つひとつの出来事は、あたかも彫刻家が鑿を振るい、大木に鑿後を残すように、皆さんの人格に深い陰影を

与え、内面を形づくってきました。意味ある鑿後こそが、作品に奥行きを与えるのです。

本学の建学の精神は、「キリスト教信仰に基づく教育と人格形成」にあります。それは単なる知識や技術の習得にとどまるのではなく、神を敬い、人を愛し、与えられた使命に従って生きるといふ、全人的な成長を目指すものです。

また、本学のスクールモットーである「愛と奉仕は、神を愛し、隣人を尊び、その存在をかがえのなれもの」として受けとめること、そして自らの賜物をもって他者に仕えることを意味します。

皆さんはこの学び舎において、知識のみならず、人と出会い、支え合い、ときに悩み、祈りながら、自らを見つめ続けてこられました。その歩みのすべてが、皆さんの内に揺るぎない土台を築いています。

私は、皆さんの体験の中にこそ、「神からのメッセージ」があると信じております。順調な日々だけが人を育てるのではありません。むしろ、困難や挫折の中にあつてこそ、信仰と人格は磨かれていきます。

私たちは過去の出来事を変えることはできません。しかし、それをどのように受けとめるかによって、過去の意味は変わります。「あの経験があったからこそ今の自分がある」と受けとめることができるとき、過去は重荷ではなく、神からの導きとして、新たな力へと変えられるのです。

特任教授 佐藤 守男

聖書の言葉に、「明日のことまで思い悩むな」という教えがあります。それは、未来への不安に心を奪われ、今日という恵みの時を見失ってはならないという神からの呼びかけであります。

これから皆さんが歩まれる道は、決して平坦ではないかもしれませんが、「愛と奉仕の心を胸に刻むとき、皆さんは必ずや「世の光」として周囲を照らす存在となることでしょう。

どうか、自らの歩みを信じてください。自らに与えられた賜物を信じてください。そして何より、「今」というこの瞬間を、丁寧に、誠実に生きてください。神は皆さん一人ひとりにふさわしい道を備えておられます。その道は静かに、そして確かに、皆さんの前に置かれています。

結びに、私自身は4月より特任教員として、週三日ほど、本学にて務めることとなりました。卒業生の皆さんが和泉を訪れる折には、どうぞ気軽に声をかけていただければ幸いです。長きにわたり賜りましたご厚情に、改めて深く感謝申し上げます。本学のさらなる発展と、皆様お一人おひとりのご健勝とご活躍を、心よりお祈り申し上げます。退任の挨拶といたします。



退任あいさつ

— 相模原移転後歴代総ての学生に、
授業で語り続けた49年 —

特任教授 武石 宣子



世田谷から相模原の地へ完全移転した昭和52年4月、私は和泉短期大学に専任教員として奉職し令和8年3月末、49年の長き時を経て退任いたしました。この間

「一番印象に残った出来事は何か」と、問われると創立50周年記念事業の一つ体育館(アリーナ及び併設されたリトミック室)建立を挙げます。特に併設されたリトミック室は、他の養成校ではなかなか無い施設です。部屋の2面は総鏡張りでパー付き、床は総板張り、正面にはグランドピアノを設置したステージ仕様、そして最善な音響効果を配し、照明はできるだけ自然色に近い温か味のある色合い等々、総ての希望を取入れて設計していただきました。私の友人がリトミック室を見学すると「こんなに素晴らしい環境で授業ができるなんて幸せ者ね」と、必ず答えます。

自分の専門(リトミック)を相模原移転後歴代総ての学生に、授業で語る事ができた教員生活に感謝、感謝、感謝です。実習巡回等で多くの園に伺うと、必ずそこには和泉の卒業生が立派に活躍している姿を確認します。嬉しい限りです。これからは外から和泉を支え続けます。長い間ありがとうございました。



「国際ソロプチミスト相模」2025年度Sクラブ、シグマソサエティ助成金贈呈式

2026年2月19日(木)相模原市民会館会議室にて、『国際ソロプチミスト相模』岩本一枝 会長から助成金の贈呈式があり、和泉短期大学からは大下聖治副学長、平塚豊事務局長が出席しました。

国際ソロプチミスト相模から本学に対しての助成金(60,000円)は、2005年度から始まり本年度で21回支援していただいております。

貴重な助成金をハンドベル履修学生の依頼演奏、集中練習等に係る交通費、及び活動費等のハンドベル・クワイア活動に使用させていただきました。

【和泉短期大学ハンドベル・クワイア プロフィール】

和泉短期大学は児童養護施設の保育者養成を目的に建学され、現在までに保育、幼児教育、社会福祉施設等で多くの卒業生が活躍しています。

ハンドベル・クワイアは、選択科目となった「ハンドベルⅠ」「ハンドベルⅡ」「ハンドベルⅢ」「ハンドベルⅣ」の履修者によって構成され、綾部律子先生のご指導のもと授業及び放課後に練習を積み重ねており、2025年度は、前期1年生6名、2年生4名、後期1年生3名、2年生4名が履修しました。

特別礼拝やクリスマス行事等では欠かすことのできない存在として活躍し、その豊かで深い音色は周囲を温かく包みこんでいます。



学校法人和泉短期大学 永年勤続表彰が行われました

2026年5月18日(月)和泉クラーク・ホールに於いて、創立記念礼拝後に、教職員の永年勤続表彰が行われました。学校法人和泉短期大学では、永年にわたり教学に力を尽くした教職員に対して表彰しています。

2026年度は、須田拓理事長から、事務局次長・学術情報ユニットリーダー深町和哉氏(勤続15年)に、表彰楯、記念品、賞金が贈呈されました。



人事

任期満了(2026年3月31日付)

佐藤 守男 学長

任期期間満了(2026年3月31日付)

武石 宣子 特任教授

兼務解除(2026年3月31日付)

大下 聖治 副学長兼認証評価連絡調整責任者(ALO)

契約期間満了(2026年3月31日付)

杉田 美香 助教(契約)

定年(2026年3月31日付)

今泉 治子 庶務ユニット(庶務担当)主任

就任(2026年4月1日付)

大下 聖治 学長

山本 美貴子 副学長兼教務部長

横川 剛毅 学生部長兼認証評価連絡調整責任者(ALO)

任用(2026年4月1日付)

佐藤 守男 特任教授

杉田 美香 特任助教

佐久間志保子 専攻科ヒューマンケア専攻特任教授

中野 志津江 専攻科ヒューマンケア専攻特任助教

今泉 治子 庶務ユニット(庶務担当)嘱託事務職員

任用(任命書)(2026年4月1日付)

井狩 芳子 特命教授

武石 宣子 内部監査室長

昇任(2026年4月1日付)

瀧澤 愛美 教育・学習支援ユニット(事務職員として試備)

配置(2026年4月1日付)

山中 仁 広報渉外ユニット主任兼務

芹澤 薫 広報渉外ユニットサブリーダー兼務を解く

称号授与

名誉教授(5月18日)

武石 宣子

表彰

永年勤続表彰(15年)

深町 和哉 事務局次長

第15回2025年度ベストオブスタッフ賞(事務局長賞)

竹村 由佳子 学生支援ユニット

2025年度表彰者

眞鍋記念奨学金(後期)

2年 安田 有花
(S高等学校 出身)



この度は名誉ある賞を賜り、心より感謝申し上げます。和泉では、多様な人々を尊重し共に生きるという愛と奉仕の精神を学びました。これからも目の前の人の願いにまなざしを向け、誰もが幸せに生きられる社会を実現するために、自分にできることを考え実践し続ける人でありたいと思います。

2年 塚本 愛
(東京都立赤羽北桜高等学校 出身)



この度は、眞鍋記念奨学金の奨学生に選んでいただき、大変嬉しく思います。私が保育や福祉の分野をこんなに楽しかったのは、先生方をはじめ、支えてくださった皆様のおかげであり、深く感謝しています。和泉での確かな学びを胸に、保育者として成長を続け、活躍する人になります。本当にありがとうございました。

専攻科 橋本 空
(和光高等学校 出身)



この度はこのような賞をいただくこと大変光栄に思います。この1年間の授業や実習を通して介護という福祉の専門性の幅を広げることができたと改めて実感しております。この先も自分の保育、福祉従事者としての在り方について考え続け、日々精進してまいります。

1年 角田 美玲
(神奈川県立麻溝台高等学校 出身)



このたび栄えある賞を賜り、誠に光栄に存じます。前期からの学びや日々の積み重ね、後期の実習を通して、一人ひとりに

丁寧に向き合い、その方の幸せを願うことの大切さを深く感じました。支えてくださる皆様に感謝し、今後その思いを大切にしながら学びを積み重ねてまいります。

1年 篠 音華
(東京都立町田総合高等学校 出身)



この度は、名誉ある賞をいただき、大変光栄に存じます。授業や実習を通して、一人ひとりの「今」を丁寧に捉え、必要なことを考え、多様な視点で柔軟に関わることの重要性を強く実感しました。今後は修得した知識と経験を活かし、試行錯誤を重ねて、より良い関わり方を追求できる保育者となるべく努力してまいります。

中島武夫記念賞

2年 近森瑛美理
(神奈川県立上鶴間高等学校 出身)



この度は中島武夫記念賞をいただき、大変光栄に思います。2年間で、愛と奉仕を大切にしながら、環境の中で多くのことを学び、成長することができました。支えてくださった先生方や共に学んだ学友に心より感謝しています。この賞を糧に、私信念でもある愛と奉仕をもって子どもと共に成長していきたいと思えます。

学長賞(後期)

2年 小泉 奈那
(光明学園相模原高等学校 出身)



この度は学長賞という素晴らしい賞をいただき、大変嬉しく思います。和泉で過ごした2年間は、仲間や先生方に支えられ、かけがえのない時間となりました。この経験と

感謝の気持ちを胸に、これから出会う方々に寄り添い、支えることのできる存在でありたいと思います。

2年 高橋 晴夏
(神奈川県立上溝高等学校 出身)



この度は、学長賞という素晴らしい賞をいただき、大変嬉しく思います。和泉短期大学でのボランティア活動や市長との意見交換を通して、多くの学びと貴重な経験を得ることができました。特にボランティア活動は実習にも生かされ、仲間と意見を出し合いながら一つのことを形にしていける時間は本当に楽しく、忘れられない経験となりました。支えてくださった皆さまへの感謝を胸に、これからも努力していききたいと思えます。

2年 水野 希恵
(文化学園大学杉並高等学校 出身)



この度は、学長賞という素晴らしい賞をいただくことができて大変嬉しく思います。2年間という短い期間でしたが、その中で経た学びや貴重な経験はこれから進む道への大きなきっかけや一歩に繋がったと実感しています。ボランティア活動や学校外での活動では地域の方々や地域の子どもと関わり、共に、保育というものを広め保育養成校の更なる発展を願う活動しました。沢山の大切な仲間に出会い、夢へのステップアップとしてこの2年間を支えて下さった多くの教職員の方々のおかげでも充実した時間を過ごすことができました。これからも子どもと一緒に成長し、学び続ける保育者でありたいと思えます。

ソーシャルワーク研究会

地域福祉ボランティア横地ゼミ

相模原市地域活動・市民活動ボランティア認定制度認定証授与

2026年2月6日(金)ウェルネスさがみはらにて「令和7年度 相模原市地域活動・市民活動ボランティア認定制度認定証贈呈式」が行われました。本学からは学生8名が出席し、本村賢太郎市長から認定証が贈呈されました。

この制度は本学と相模原市との包括連携協定に基づいて在学中に一定以上の地域活動・市民活動を行った学生に対して相模原市から認定証が贈呈されるものです。本年度は2年生15名(ボランティア博士8名、ボランティア修士4名、ボランティア学士3名)、1年生7名(ボランティア学士7名)が認定されました。

和泉短期大学はこれからも学生と共に地域に貢献してまいります。

- 博士(150時間以上) 2年生 水野 希恵、北嶋 桜乃、小泉 奈那、藤岡 明日風、谷合 美咲、橋本 侑奈、川崎 輝、矢田 妃依
- 修士(90時間以上) 2年生 中島 幸代、中村 夕紗、松本 歩苗、高橋 晴夏
- 学士(30時間以上) 2年生 大塚 咲良、市沢 康子、福野 桃華
- 1年生 阿蘇 悠晟、田中 美結、内山 紗良、智葉 七海、馬上 紗空、下里 唯七、國分 未来



1年生



2年生

2026年度 和泉短期大学「愛のいずみ基金奨学金」(給付型奨学金)のお願い

学校法人和泉短期大学の原点であるララ物資の精神を引き継ぐために本学教職員・法人関係者の方々からの寄付を中心とした本学独自の給付型奨学金基金を2018年度より設立しました。

現在の社会・経済環境が甚だ厳しい状況にあります。本学独自の愛のいずみ奨学金基金の趣旨をご理解のうえ、和泉短期大学の学生の支援充実のため、一人でも多くの方々のご支援、ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

募金目標金額 3,000,000円
募金募集期間 2026年6月～2027年3月(第9期)
創立70周年記念
募金金額 1口5,000円
払込方法 郵便振替口座
座番号 00280-6-105705
座名 学校法人 和泉短期大学
愛のいずみ基金奨学金

所得税・住民税の寄付控除

本法人への募金(寄付金)につきましては、年間2,000円を超える金額に対して、確定申告をすることにより所得税及び住民税の寄付控除を受けることができます。

法人募金の場合

法人からの募金(寄付金)につきましては、日本私立学校振興・共済事業団を通じて、「受配者指定寄付金」として全額損金算入することができます。詳しくは下記までご連絡ください。

問合せ先 学校法人
和泉短期大学 庶務ユニット(法人担当)
 042-754-1133

2026年度「教育環境充実資金募金」のお願い

学校法人和泉短期大学は1956年4月東京都世田谷区中町に「バット博士記念養成所」を開設し、同年5月「現任訓練講習会」を開催したことに始まります。1960年、その現任訓練機関が「玉川保母専門学院」となり、1965年に「和泉短期大学」が設立され、2026年5月に学校法人和泉短期大学は創立70年を迎えました。

学校法人和泉短期大学を卒業された卒業生は20,566名の方々の働きや努力と活躍により発展成長したものと深く感謝申し上げます。

和泉短期大学は、教育の充実を図り、学修環境整備、施設設備の維持整備を目的に2026年度も「教育環境充実資金募金」を行うことになりました。

皆様には出費多難な折とは存じますが、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

募金対象事業

- 1号館 教室プロジェクター交換工事
- 1号館 教室教卓周辺機器の整備
- ICT環境の整備

募金目標金額 10,000,000円

募金募集期間 2026年6月1日～2027年3月31日(第15期)
創立70周年記念

募金金額

1 個人	1口	5,000円
2 法人	1口	10,000円

所得税・住民税の寄付控除

本法人への募金(寄付金)につきましては、年間2,000円を超える金額に対して、確定申告をすることにより所得税及び住民税の寄付控除を受けることができます。

法人募金の場合

法人からの募金(寄付金)につきましては、日本私立学校振興・共済事業団を通じて、「受配者指定寄付金」として全額損金算入することができます。

詳しくは下記までご連絡ください。

問合せ先 学校法人
和泉短期大学 庶務ユニット(法人担当)
 042-754-1133

2025年度 和泉短期大学『愛のいずみ基金奨学金募金』報告

2025年度「愛のいずみ基金奨学金募金」報告を致します。多くの皆様にご賛同いただき、心から感謝申し上げます。

ご寄付総数 37件 寄付総額 3,080,000円

寄付者一覧(敬称略) <2025年12月1日～2026年3月31日>

大谷 孝次/金成 泰宏/武石 宣子/渡辺さなみ/和泉短期大学後援会 会長 雑賀えり子

以上5件

2025年度『教育環境充実資金募金』報告

2025年度「教育環境充実資金募金」報告を致します。多くの皆様にご賛同いただき、心から感謝申し上げます。

ご寄付総数 40件 寄付総額 643,469円

寄付者一覧(敬称略) <2025年12月1日～2026年3月31日>

遠藤 陽子/大谷 孝次/金成 泰宏/嶋田 順好/国際ソロプチミスト相模 会長 岩本一枝/日本基督教団 相模原教会(2件)

以上7件

学校法人和泉短期大学創立70周年記念事業「バリアフリー化推進事業募金」(エレベータ設置)の報告

エレベータ設置のための募金活動につきまして、皆様より温かいご支援とご協力を賜りましたことに深く感謝いたします。無事に工事を完了し、4月6日(月)に奉獻式を執り行うことができました。

寄付者一覧(敬称略) <2025年12月1日～2026年3月31日>

安積 淳/池田 悦子/伊藤 忠彦/今村 愛喜/大下 聖治/小澤 博道/片山 知子/川井 昶彦/佐藤 守男/佐藤 蘭美/佐藤 美紀/須田 拓/須田 叔江/曾根真理子/武石 宣子/平塚 豊/松井 芳弘/松田 壯吾/山本美貴子(2件)/匿名希望(6件) 以上26件 1,950,000円



— 2025年度決算書概要説明 —

厳しさを増す運営状況

2026年5月22日(金)開催の理事会、5月30日(土)開催の評議員会において、2025年度決算が承認されました。

2025年度決算の概要を説明いたします。学校法人会計の計算書類は、資金繰りの状態を表す「資金収支計算書」、経営状態を表す「事業活動収支計算書」、財政の安全性を表す「貸借対照表」により表示し、私立学校法第103条及び学校法人会計基準第4条に定められた規則に基づき作成しています。

本法人の財務に関する公表は、「財務計算に関する書類」とともに、決算書の概要として、資金収支決算概要、活動区分資金収支決算概要、事業活動収支決算概要、貸借対照表決算概要を公表します。

資金収支計算書は、2025年度中の全ての資金の流れを表示した計算書です。資金収入合計は2,566,916千円、資金支出合計は2,286,198千円で、資金収支差額は280,718千円です。

現金預金減少の主な要因は学生数減少による学納金収入減少、受験者数減少と神奈川県離職者等委託訓練事業による委託生の増加により前受金収入が減少したことによります。このこともあり、資金運用委員会が年度内に満期を迎える金融資産の構成を見直し、大口の定期預金ならびに短期の金銭信託として組み換えしたため、流動資金が増加しました。

事業活動収支計算書は、当該年度の学校法人の収入及び支出の均衡状況を明らかにし、学校法人が健全であるかを示す計算書です。3つの収支区分(①教育活動収支、

②教育活動外収支、③特別収支)から構成されています。

経常収入(教育活動収入439,496千円と教育活動外収入29,901千円)の63.6%を学納金に依存しているため、学生数の減少は、本法人の運営に甚大な影響を及ぼすこととなります。事業活動収支差額(基本金組入前当年度収支差額)△271,710千円から第1号、第2号、第3号基本金128,580千円を基本金に組入れた後の当年度収支差額は、400,287千円支出超過でした。

教育活動支出の大半を占める人件費は、411,311千円で人件費比率は、87.6%です。教育研究経費は231,081千円、管理経費は104,793千円でした。

3つの区分の合計額である事業活動収入計は504,140千円、事業活動支出計は、775,847千円でした。

貸借対照表は、2025年度末における当法人の資産の部、負債の部、純資産の部の3つの要素から構成され、学校法人の財政状態を明らかにする計算書です。有形固定資産の土地、建物、構築物、機器備品等については、取得価額から減価償却累計額等を控除した金額で表しています。

資産の部合計は、7,696,733千円です。退職給与引当金と前受金が大部分を占める負債の部合計は、324,242千円です。基本金と繰越収支差額で構成されている純資産の部合計は、7,372,491千円です。負債の部合計と純資産の部合計は、7,696,733千円です。

事務局長 平塚 豊

— 2026年度予算書概要説明 —

学生数の減少と施設・設備充実への支出による厳しい予算編成

2026年3月21日(土)評議員会、理事会において2026年度予算が承認されました。計算書類の予算書は、資金収支予算書と事業活動収支予算書で構成されます。

2026年度予算計算書類の概要を説明いたします。資金収支予算書の資金収入合計は、592,025千円、資金支出合計は997,649千円です。

資金収支差額は、405,624千円支出超過になる見込みです。これは、学生数減少(新入生が対前年比35名減)による学納金と前受金等の減収。その他の支出として

特定天井改修、照明器具取替更新(LED)、2号館屋上シート防水塗装等大規模な維持修繕を予定していることが大きな要因になっています。

事業活動収支予算書は、教育活動収支、教育活動外収支、特別収支の3つに区分され、区分ごとに収支差額を求めます。3つの区分の合計額である事業活動収入計は396,935千円です。基本金組入額合計は、37,099千円です。事業活動支出計は、予備費30,000千円を含め815,806千円です。2026年度事業活動収支差額は、418,871千円支出超過と、大変厳しい予算編成になっています。

学校法人和泉短期大学の財政見通しについて

少子化による18歳人口の減少、保育志望者の激減により、保育者を養成する短期大学の経営環境は年々急速に悪化しています。

本学は、経常収入の7割以上を学納金に依存している現状において、入学者の定員確保、離学者の防止は喫緊の課題となっています。

2025年度は、福祉を標榜する学校として、バリアフリーの観点から1号館にエレベータを新設しました。近年は、幅広い年齢層の方や困難を抱えた方の入学があり、教職員が一丸となって、学生へのサポートを一層強化しております。さらに学生ホールを改修して、学び舎をさらに魅力ある環境にいたしました。

2026年度は、教育環境整備事業を継続し、教室プロジェクター取替更新、教卓周りの機材の統一を実施するほか、和泉クラーク・ホールや体育館入口の吹き抜きの天井耐震補強を、2年計画で実施する予定です。

相模原市に移転後49年を経過し、50年目に入るため、必要な修繕を計画的に行っております。時代に合わせた改修や設備の充実には多額の経費を要しますが、経営の効率化とのバランスを保ち、一層の財政基盤の強化を図りながら取り組みます。

「2026年度学校法人和泉短期大学の基本構想」は、次の6つの柱です。

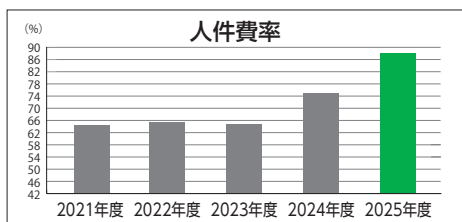
1. 建学の精神の継承と深化
2. 将来構想の策定
3. 地域連携・リカレント教育の実施
4. キリスト教学校との連携、地方との協力
5. 中期計画の着実な実行、コンプライアンスの徹底とガバナンスの強化
6. 施設の維持と整備により事業展開して参ります。

2026年度は学校法人和泉短期大学第3次中期計画15のビジョン(2025年度～2029年度)の2年目となります。全教職員でPDCAサイクルによる振り返りを行い、理事会、評議員会に進捗状況を報告して、策定した計画を着実に実行したいと思っております。

建学の精神である「キリスト教信仰に基づく教育と人格形成」、スクールモットーである「愛と奉仕」に基づいた本学の特色のある教育を展開し、学生にとって居心地の良い明るいキャンパス、地元密着型、実力養成型の短期大学を目指して教職員、法人関係者一体となり努力して参ります。

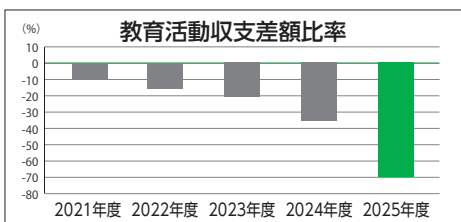
事務局長 平塚 豊

— (2021年度～2025年度) 財務比率推移(グラフ)と説明 —

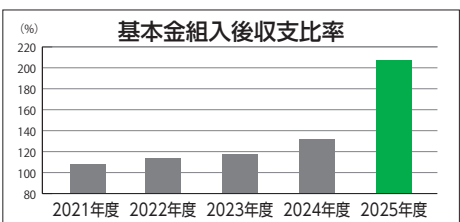


経常収入に対する人件費の割合。50%以内が目安です。

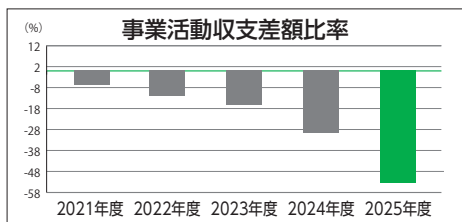
人件費は、経常支出の中でも最大の比重を占める支出です。人件費が膨らみ収支状況が悪化しています。



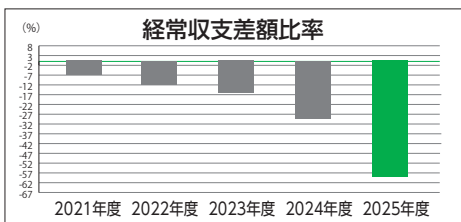
本業である教育活動の収支バランスを表す比率。学校本来の教育活動による収支差額を表わしているため、本業である教育活動収入の範囲内でどの程度余裕を持って運営できているかを把握することができます。



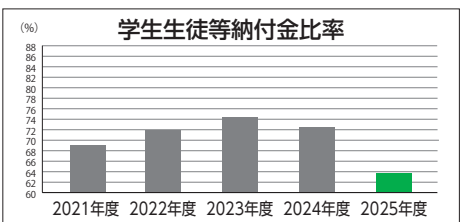
事業活動収入から基本金組入額を控除した額に対する事業活動支出が占める割合を示す比率。90%以上になると経営が困難になると言われています。臨時的な固定資産の取得等による基本金組入が著しく大きい年度において、一時的に上昇する場合があります。5年間、学納金減収により、100%を超えています。



旧帰属収支差額比率。学校法人の純利益を表わす、重要な財務比率です。比率がプラスで大きいほど自己資金が充実しています。プラス分から将来の施設設備の取替更新の余裕を示します。マイナスが何年も継続して行くか経営は窮迫し、資金が枯渇します。10%以上を経営安定の指標にしています。5年間はマイナスの状況です。



経常的な活動に関する収支バランスを表す比率。この比率は、臨時的な収支を考慮しない通常の事業活動による収支バランスを示す比率のため、支出超過の場合は財政がひっ迫していることを表しています。支出超過分が、減価償却額の範囲内であれば、資金ショートを起こすことはありません。経営の健全性を表す指標です。



経常収入に占める学生生徒等納付金収入の割合です。経常収入に占める学生生徒等納付金への依存度が高いため、学生数の減少は、経営に甚大な影響を及ぼすため補助金、その他の収入の増額を語る必要性があります。2020年度から給付型奨学金の補助金増収により低下しています。

— 資金収支計算書概要 —

2025年度決算・2026年度予算

収入の部

(単位：千円)

科 目	2025年度決算額	2026年度予算額
学生生徒等納付金収入	298,734	239,810
手数料収入	2,954	3,510
寄付金収入	6,109	1,300
補助金収入	123,388	97,572
国庫補助金	123,342	97,541
地方公共団体補助金	46	31
付随事業・収益事業収入	28,607	21,906
受取利息・配当金収入	29,901	23,900
雑収入	14,447	8,937
前受金収入	52,835	48,305
その他の収入	2,135,700	206,177
資金収入調整勘定	△ 125,759	△ 59,392
資金収入合計	2,566,916	592,025
前年度繰越支払資金	707,560	988,278
収入の部合計	3,274,476	1,580,303

支出の部

(単位：千円)

科 目	2025年度決算額	2026年度予算額
人件費支出	405,683	413,772
教育研究経費支出	183,325	193,009
管理経費支出	97,043	105,628
施設関係支出	77,057	182,307
設備関係支出	13,884	4,427
資産運用支出	1,529,411	58,900
その他の支出	9,473	32,316
[予備費]		30,000
資金支出調整勘定	△ 29,678	△ 22,710
資金支出の部合計	2,286,198	997,649
翌年度繰越支払資金	988,278	582,654
支出の部合計	3,274,476	1,580,303
資金収支差額	280,718	△ 405,624

— 事業活動収支計算書概要 —

2025年度決算・2026年度予算

(単位：千円)

科 目	2025年度決算額	2026年度予算額
事業活動収入の部		
学生生徒等納付金	298,734	239,810
手数料	2,955	3,510
寄付金収入	4,358	1,300
経常費等補助金	91,873	97,572
付随事業収入	28,607	21,906
雑収入	12,969	8,937
教育活動収入計	439,496	373,035
事業活動支出の部		
人件費	411,311	427,244
専任教員給	180,947	176,226
兼任教員給	9,679	10,674
専任職員給	148,007	150,430
兼任職員給	14,242	22,374
役員報酬	1,630	1,950
退職給与引当繰入額	26,354	13,944
退職金	1,164	22,358
賞与引当金繰入額	29,288	29,288
教育研究経費	231,081	244,907
(減価償却額)	47,751	51,898
管理経費	104,793	113,655
(減価償却額)	7,703	2,857
(広報宣伝費)	17,594	18,356
徴収不能額等	525	0
徴収不能額	525	0
教育活動支出計	747,710	785,806
教育活動収支差額	△ 308,214	△ 412,771
外収支		
動事業収入	29,901	23,900
教育活動外収入計	29,901	23,900
教育活動外支出計	0	0
教育活動外収支差額	29,901	23,900
経常収支差額	△ 278,313	△ 388,871
特別収支		
事業活動収支		
資産売却差額	0	0
その他の特別収入	34,743	0
特別収入計	34,743	0
資産処分差額	358	0
その他の特別支出	27,779	0
特別支出計	28,137	0
特別収支差額	6,606	0
[予備費]		30,000
基本金組入前当年度収支差額	△ 271,707	△ 418,871
基本金組入額合計	△ 128,580	△ 37,099
当年度収支差額	△ 400,287	△ 455,970
前年度繰越収支差額	2,255,353	1,855,066
基本金取崩額	0	0
翌年度繰越収支差額	1,855,066	1,399,096
事業活動収入計	504,140	396,935
事業活動支出計	775,847	815,806
事業活動収支差額(基本金組入前当年度収支差額)	△ 271,707	△ 418,871
事業活動収支差額比率(旧帰属収支差額比率)	-53.9%	-105.5%

— 2025年度 貸借対照表概要(2026年 3月31日) —

(単位：千円)

資産の部			
科 目	2025年度末	2024年度末	増 減
固定資産	6,661,929	7,217,638	△ 555,709
有形固定資産	2,629,460	2,594,330	35,130
土地	1,928,418	1,928,418	0
建物	592,788	565,376	27,412
構築物	1,552	1,828	△ 276
教育研究用機器備品	16,084	8,518	7,566
管理用機器備品	3,646	3,704	△ 58
図書	86,972	86,486	486
特定資産	3,261,879	3,252,718	9,161
第2号基本金引当特定資産	150,000	100,000	50,000
第3号基本金引当特定資産	346,734	344,718	2,016
減価償却引当特定資産	2,299,000	2,249,000	50,000
退職給与引当特定資産	203,000	199,000	4,000
施設拡充引当特定資産	263,145	360,000	△ 96,855
その他の固定資産	770,590	1,370,590	△ 600,000
電話加入権	690	690	0
施設利用権			0
金銭の信託	50,000	600,000	△ 550,000
定期預金	719,900	769,900	△ 50,000
積立保険金	0	0	0
流動資産	1,034,804	720,124	314,680
現金預金	988,278	707,560	280,718
未収入金	42,854	8,769	34,085
貯蔵品	3,515	3,567	△ 52
立替金	0	87	△ 87
仮払金	157	141	16
資産の部合計	7,696,733	7,937,762	△ 241,029

(単位：千円)

負債の部			
科 目	2025年度末	2024年度末	増 減
固定負債	208,945	201,868	7,077
退職給与引当金	203,438	199,318	4,120
長期未払金	2,957	0	2,957
預り敷金	2,550	2,550	0
流動負債	115,297	91,696	23,601
未払金	26,721	2,901	23,820
前受金	52,835	82,380	△ 29,545
預り金	6,453	6,385	68
仮受金	0	30	△ 30
賞与引当金	29,288	0	29,288
負債の部合計	324,242	293,564	30,678
純資産の部			
科 目	2025年度末	2024年度末	増 減
基本金	5,517,426	5,388,845	128,581
第1号基本金	4,970,692	4,894,127	76,565
第2号基本金	150,000	100,000	50,000
第3号基本金	346,734	344,718	2,016
第4号基本金	50,000	50,000	0
繰越収支差額	1,855,065	2,255,353	△ 400,288
翌年度繰越収支差額	1,855,065	2,255,353	△ 400,288
純資産の部合計	7,372,491	7,644,198	△ 271,707
負債の部、純資産の部	7,696,733	7,937,762	△ 241,029

注記 1. 減価償却額の累計額の合計額 2,347,934千円
 2. 翌会計年度以降の基本金への組入額 0千円

TOPICS

**第60回卒業証書・学位記授与式、
専攻科ヒューマンケア専攻 第16回修了証書授与式**

2026年3月10日(火)に、第60回卒業証書・学位記授与式、専攻科ヒューマンケア専攻第16回修了証書授与式が和泉クラーク・ホールで開催されました。



当日は曇天の中、児童福祉学科135名、専攻科ヒューマンケア専攻7名が和泉短期大学を卒業しました。

卒業生や修了生は、グループアドバイザーが一人ずつ名前を呼び、佐藤学長より「卒業証書・学位記」が卒業生代表に手渡されました。

式後のグループミーティングでは、アドバイザーから1人ひとりに卒業証書学位記が手渡され、2年間の学生生活を振り返り名残り惜しみました。

4月から、保育所、幼稚園、児童福祉施設など、それぞれ専門職として新しい道に進みます。

みなさんのこれからの活躍をずっと応援しています。
ご卒業、おめでとうございます。

2025年度父母会役員(2年生)に記念品を贈呈

2026年3月10日(火)理事長室において、2年間父母会役員としてご尽力いただいた2年生の父母会役員6名の皆様に、佐藤学長が感謝の意をお伝えし、記念品「渡辺和子著『置かれた場所で咲きなさい』」を贈呈しました。



役員のみなさま、2年間ありがとうございました。

**第62回児童福祉学科、第17回専攻科ヒューマンケア専攻
入学式を挙行了しました**

2026年4月1日(水)、和泉クラーク・ホールにおいて2026年度の入学式を挙行了しました。

2026年度は、児童福祉学科に92名の新入生、専攻科ヒューマンケア専攻に9名の保育士資格取得者の入学者を迎えました。



新入生はグループごとの記念写真撮影後、アドバイザーを囲んでミーティングを行い、これから始まる学生生活の夢を語り合いました。新入生が良き保育者、介護福祉士に成長することを願っています。

2026年度学友会主催「新入生歓迎会&親睦会」開催

毎年、学友会委員の学生が主体となり、新入生歓迎会を開催します。今年は、どんなプログラムにしようかと、学生相互にアイデアを出し合いながら、内容を検討していきました。さまざまな授業を通して学んだことを実践する場にもなります。今年は、身近にある素材を使用してポリ袋で大きなボールを作成し、参加者全員がイラストや自分の思いをそのボールに描き込み、そのボールを使用してアリーナ(体育館)でゲームを楽しみました。4月20日(月)、新しく和泉で学生生活をスタートさせた新入生も、2年生との関わりの中で、表情が和らぎ、声も弾み、豊かな交わりの時を過ごすことができました。



この活動をきっかけに、他学年の壁をなくし、和泉での生活や学びがより豊かなものになることを期待します。

第38回 介護福祉士国家試験 7名(全員)合格しました

第38回介護福祉士国家試験の結果が、2026年3月16日(月)に発表されました。

和泉短期大学 専攻科 ヒューマンケア専攻の学生は7名受験し、7名全員が合格しました。合格基準は総得点125点に対し、得点64点以上の方です。合格率は70.1%。

和泉短期大学の合格率は100%です。
一生懸命、真摯に授業、実習そして国家試験対策に取り組んだ成果です。合格おめでとうございます。



2025年度「和泉短期大学スプリングコンサート」を開催しました

2026年2月27日(金)和泉クラーク・ホールにおいて「和泉短期大学スプリングコンサート」を開催しました。

当日は、地域の方々や教職員を含め360名以上の方にご来場いただきました。

第一部は、本学オルガニストである石井三枝子さんのパイプオルガン演奏、第二部は、RITAMY(リタミイ)のメンバーによるソプラノ(松井律子さん)、オーボエ(渡辺智子さん)、ピアノ(高木亜紗さん)、オルガン(藤田泉さん)の演奏をお送りいたしました。



今後も、地域の皆様にとりまして素敵なコンサートをお届けできるよう企画して参ります。

多くの方のご来場、誠にありがとうございました。

創立70周年「創立記念礼拝」を行いました

和泉短期大学は創立70周年を迎え、5月18日(月)、創立記念礼拝をおさげしました。

佐藤守男特任教授は、「2026年度 和泉短期大学 創立記念礼拝」と題して本学の歴史を紐解き、本学正門入口にあるブロンズのパネル(ラテン語)「願わくは、このキリストの泉から若者たちの清らかさと愛とが湧き出でんことを」が本学の使命であり、卒業生は財産、学生は宝であると語られました。

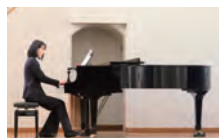


2026年度新入生研修会が開催されました

和泉短期大学の建学の精神は「キリスト教信仰に基づく教育と人格形成」です。

4月7日(火)に、新入生研修会を開催しました。和泉での学生生活の始まりに、建学の精神であるキリスト教に触れ、今後の学びの土台を築くためのプログラムです。

第一部の宗教部オリエンテーションでは、今村チャプレンより和泉短期大学の歴史とキリスト教と保育・福祉の結びつきについてお話されました。新入生にとって、和泉の歴史を知る良い機会になりました。



第二部では、日本基督教団日下部教会牧師である齋藤彩先生による音楽講演会を行いました。

音楽と講演を通して、キリスト教について親しみやすいお話で学生に伝えて下さいました。

また、讃美歌の「主われを愛す」、「聖なる聖なる」、「いつくしみ深き」、「われをもすくいし」を学生と歌い、その歌詞からキリスト教の「愛」、「聖」、「赦し」、「恵み」についてお話しして頂きました。

新入生が、和泉短期大学での学生生活を支え導く神様の愛に触れるときとなりました。

催し物のお知らせ

第57回いずみ祭開催決定

2026年10月24日(土)10時~15時
和泉短期大学1号館 3号館(和泉クラーク・ホール)

今年度もいずみ祭を開催します。おこさまからご高齢の方まで楽しめる企画となるよう学生・教職員で準備を進めています。皆様のご来場をお待ちしております。

- (いずみ祭出店(展)予定)
- ・学生保育出店(ゲームや手作り企画)
- ・サークル活動、自主企画発表
- ・和泉短大の展示
- ・図書紹介、読み聞かせ
- ・オレンジリボン活動、キリスト教活動展示
- ・近隣中学校吹奏楽部演奏
- ・青葉二丁目自治会・福祉施設出店・JA野菜販売
- ・相模原市 健康測定コーナー・児童虐待防止コーナー
- ・受験生相談コーナー
- ・同窓会「いずみのひろっぱ」
- ・食堂開放



同日開催 保証人会「実習・就職について」大学より説明

駐車場のご用意はありません。スクールバス、公共交通機関、自転車をご利用ください。スクールバスの時間は10月中旬にホームページでお知らせします。

8月研修会 参加者募集!

今夏、4回目を迎えるリカレント教育「現任研修・公開講座」を下記の要領で行います。毎回多くの卒業生、地域の実践現場の皆様にご参加いただいています。この夏も、ご参加を心よりお待ちしております。

日 時: 2026年8月29日(土)
12:50~17:00

テ ー マ: 「保育・福祉 実践現場の今一ハラスメントの基礎知識と防止対策を学ぶ」

基調講演: 「保育福祉の職場でのハラスメントについて考えよう!」

事例報告: 福祉・保育実践現場の声から
討 論: みんなで考えよう!

ま と め: 「みんなが働きやすい職場づくり」

参 加 費: 一般2,000円
学生・和泉短期大学卒業生 無料

詳細はリンク先へ→
幼稚園・認定こども園版キャリアアップ研修(全国対象)に該当



**和泉の食堂に、
いらっしやいませ!**

専攻科介護福祉専攻(現在のヒューマンケア専攻)のある本学は、地域の高齢者と専攻科の学生が触れ合える機会はないかと模索していましたところ、元青葉地区会長さんとの立ち話で、「近隣に外食できるところが少ないので、和泉の学食が使えたらな~」にヒントを頂き、食堂を、地域の方に開放することになりました。メニューによっては、お好みに応じて、「薄味に変更!」も可能です。デザートもあります。チャイルドシートも準備しています。

お近くの方はどなたでも、ご利用可能です。多くの学生は、12:40まで授業がありますので、ゆっくりお食事をなさりたい方は、11:30~12:30が狙い目です。テイクアウトも可能です。フレンドリーな学生たちと触れ合い、若いエネルギーもチャージして頂けますと幸いです。地域の皆様のご利用を、お待ちしております!